

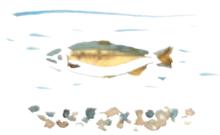
# 二ヶ村緑道とかぜのみち

遠く富士山も望める多摩川の堤と、せせらぎのある二ヶ村緑道を通るコースは、四季折々の自然とのふれあいが楽しめます。

二ヶ村緑道



多摩川ストーリー  
**鮎と砂利は多摩川の特産品**  
 かつて多摩川は、鮎がたくさん棲む清流として名高く、平安時代には歌人にも詠まれ、江戸時代には「上げ鮎」として将軍家に献上されていました。明治には河畔に鮎料理を出す店もでき、屋形船に乗って鵜飼を楽しむこともあったようです。砂利は江戸時代から建築資材用として採取され、明治以降需要が増えて船での運搬が鉄道にとつかわられました。京王線、西武多摩川線、JR南武線などは砂利運搬鉄道として発達したものです。河川の砂利採取が禁止になると、近くの田畑の下に埋まった砂利を採掘しました。その「砂利穴(じゃりあな)」の一つが多摩川ボートレース場です。

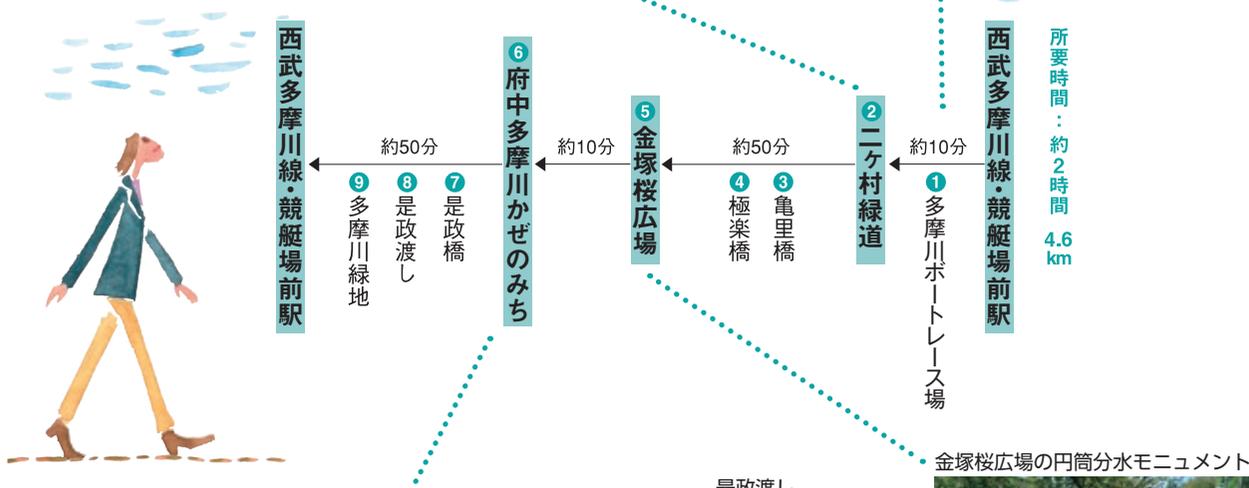


## 二ヶ村緑道のせせらぎ

二ヶ村緑道は、二つの村(常久村と押立村)が農業用水として使っていた二ヶ村用水の跡地を整備したものです。木々に囲まれた歩道とせせらぎが、実に心地よい空間を作っています。府中街道との交差点には、かつて二ヶ村用水と三ヶ村用水(上染谷、下染谷、小田分の三村の農業用水)にかかる亀里橋がありました。さらに進むと、新田川(府中用水の一流路)と妙観堀旧水路との合流地点にかかっていた極楽橋の跡があります。JR南武線の線路をくぐった先のサントリーラグビー部のグラウンドでは、運が良ければ練習風景を見られるかもしれません。

## 多摩川ボートレース場

多摩川ボートレース場は、砂利採掘場の跡地を利用し、昭和29年に開場しました。最寄りの競艇場前駅は、元々は砂利運搬の目的で大正8年に開業した「常久駅」が、競艇場開場に合わせて改称されたものです。ボートレース場の所在地は府中市ですが、運営は青梅市及び東京都四市競艇事業組合(小平市、日野市、東村山市、国分寺市)が行っています。



## 府中多摩川かぜのみちを散策

府中多摩川かぜのみちは対岸の景色もすばらしく、広々とした河川敷で解放感に浸ることができます。稲城市とを結ぶ是政橋は、姿の美しい斜張橋(塔から斜めに張り渡したケーブルで桁を吊る橋)で、東京2020オリンピック競技大会では自転車競技ロードレースのリアルスタート地点となりました。橋の向こうにある是政渡しは、かつて対岸の大丸とを結んでいた稲城道(川崎街道)筋の渡し場で、昭和16年に是政橋(木橋)が完成するまで続いていました。



府中多摩川かぜのみち

是政渡し



是政橋



## 金塚桜広場

金塚桜広場には約15種類の桜が植えられており、2月中旬から5月上旬まで次々と咲く花を楽しむことができます。広場内にある円筒分水のモニュメントは、多摩川の豊かな水を用水に分水する様子イメージして作られました。

